

認知症疾患医療連携研修会 開催報告

日時：令和6年7月25日（木）17:30～18:40

会場：北見赤十字病院 北館3階 大会議室

『家族の語り』 ～夫が若年性認知症と診断された妻の本音～

web 会議システムを活用し、ハイブリット形式の研修会を開催いたしました。オホーツク管内の医療・介護・福祉に従事する関係者41名（会場：25名 web：16名）に参加していただきました。

〈 講師 〉

若年性認知症の当事者と妻



今回の研修会は当院へ通院する若年性認知症当事者と妻を講師とする当センター初めての企画となりました。普段は支援を受ける側の自分達が少しでも当事者・家族・支援者の役に立てるならと講師依頼を引き受けてくださいました。インタビュー形式で進めていき、「自身の異変」「診断を受けたときの心境」「長年勤めた職場を退職することへの思い」「現在の仕事」等の若年性認知症当事者のリアルな声を聞くことができました。今回のテーマは『家族の語り』となっており、妻より「夫が診断を受けたときの心境」「現在の夫の症状」「夫に対して気をつけて生活していること」「若年性認知症の当事者家族として支援者に求めること」等を講話していただき、とても貴重な機会となりました。



終了後のアンケートでは、「貴重な実体験、当事者・家族の生の声が聞けるなんて」「生活の裏側のようなりリアルな生活状態がわかった」「若年性認知症の経済的な問題を理解することができました」等の感想をいただきました。また、「若年性の認知症と高齢者の認知症では抱える課題が違うため制度や情報を活用したい」「病状だけでなく、生活全体を支えていくことができるよう、考え方・知識を持たなければと思いました」等の日々の業務に繋がる学びの機会となりました。

次回の認知症疾患医療連携研修会は10月4日（金）に事例検討会を開催予定です。ハイブリット形式ではなく、当院にて集合研修となっております。近日中に各関係機関へ周知をいたしますので、多くの関係者の皆様のご参加をお待ちしております。

（認知症疾患医療センター事務局 垂石記）